

# 日高山脈の山々

看板の裏も  
見てね！

十勝岳  
1,456.6m

楽古岳  
1,471.5m



# 日高山脈の山々

看板の表も見てね！

- この場所からは「アポイ岳、ピンネシリ、日高山脈の山々」が見えます。
- 幌満川と樂古岳の川は、落ちて<sup>ふんいき</sup>いる石の雰囲気違います。場所が変われば、石の種類も変わるのですね。

樂古岳の川



黒と白のゴマ塩もようの石「トータル岩」が見られます。風化により表面が茶色です。上流に位置するため、石の形はごつごつしています。

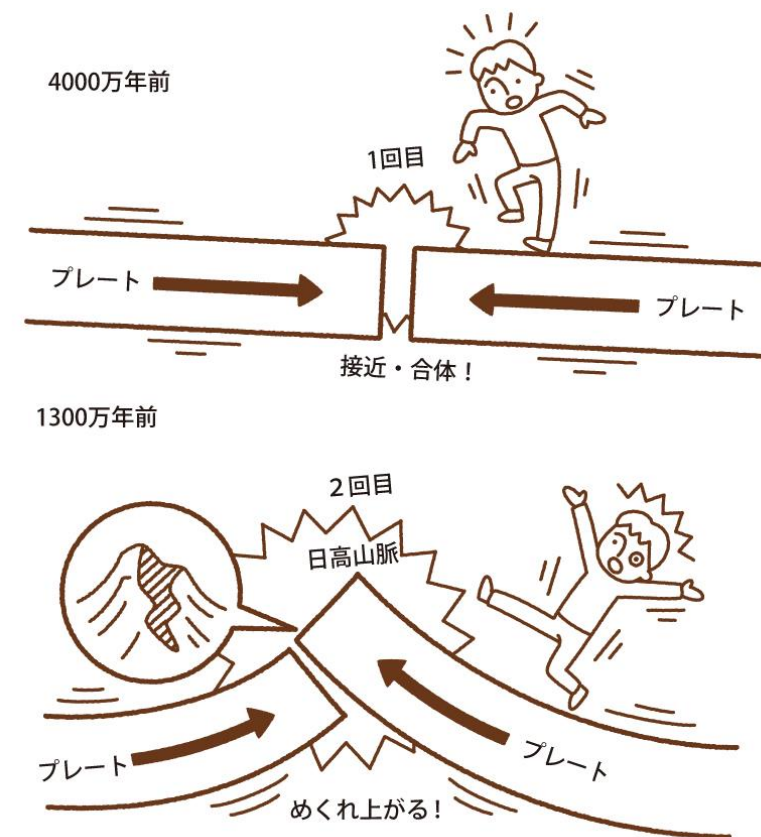
緑色の「かんらん岩」・濃青色の「はんれい岩」がみられます。風化により表面は茶色です。中流に位置するため、石の形は丸みを帯びています。

幌満川



# 日高山脈のなりたち

看板の表も見てね！



○日高山脈は、プレート同士が衝突してめくれ上がってできた山です。ヒマラヤ山脈と同じで<sup>しょうとつ</sup>でき方をした山です。

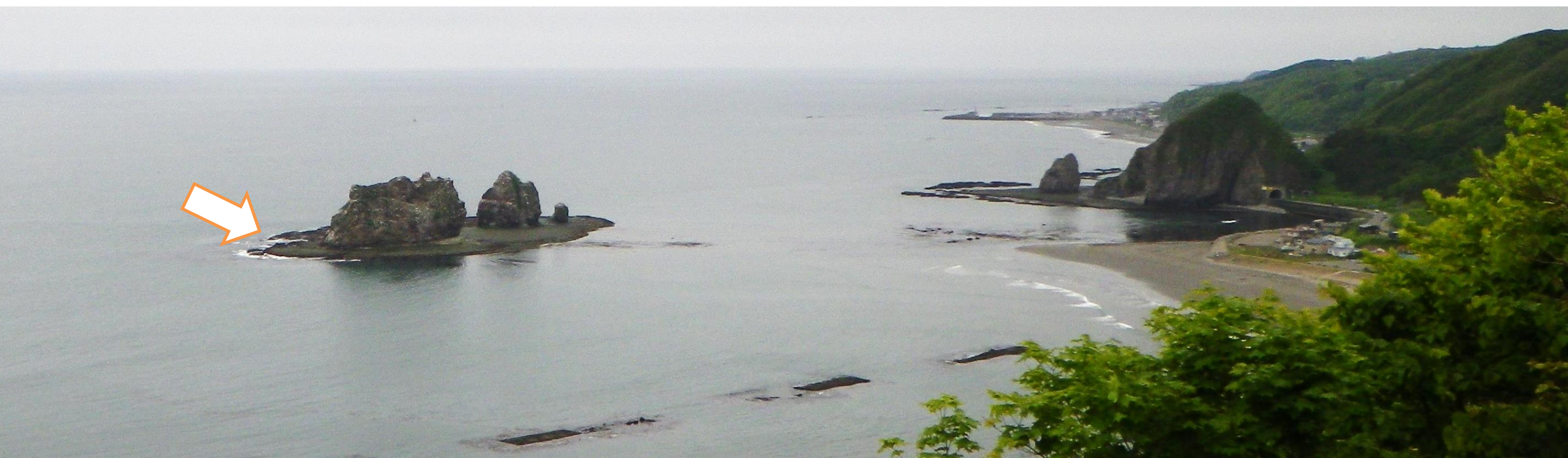
# ラッコの話

看板の表も  
見てね！



- トナカイ同様に、ラッコの語源はアイヌ語です。
- 楽古岳は、アイヌ語でラッコ・ヌプリ（山）と呼ばれ、そのふもとには楽古川（ラッコ・ペツ）が流れています。ラッコという地名については、「ラッコが漂ってここまでたどり着いた」という伝説があります。楽古岳はカムイシリ（神の山）とも呼ばれ、雷神が住んでいるという伝説があります。

# 直軸200m! <sup>だえん</sup> 橢円形のお盆



- 親子岩の周りは、<sup>かんちょう</sup>干潮時に真っ平らなお盆のような岩場「<sup>はしよくだい</sup>波食台」が見られます。海の波が岩を少しづつ削ってつくられた地形です。
- 7月の波食台は、昆布などの海藻でびっしりと埋め尽くされています。岩場にはウニや貝などの生き物たちが住んでいます。
- 巨大なお盆は、豊かな海の恵みもたくさん乗せているのですね。

# いつ、今の港の姿になった？

○この写真は昭和9年、  
観音山から撮影した  
ものです。



様似のあゆみ写真集より

# ハクセキレイ

## スズメ目 セキレイ科

町内でよく見かけます。  
探しやすい鳥の一つです。

チチン♪  
チチン♪



さがしてみよう!

- 大きさ:スズメより少し大きい。
- 見た目の特徴:白いほおと長い尾。背はオスは黒く、メスや幼鳥は灰色。
- 特徴:電線の上など目立つところによく止まり、長い尾を上下にふる。
- 見かけやすい場所:草の生えている道路沿い、親子岩ふれあいビーチ、中央公民館前の木。

# 初夏、様似川で見られる鳥

まずは、鳥をさがしてみよう!

ギョツギョツシツ♫  
ギョツギョツシツ  
ケツケツシツ

さえずり  
ヒーチョロリー♫  
ヒーチョヒチョー♫

地鳴き  
ジツジツジツ♫



メス

オス

オオヨシキリ  
スズメ目ヨシキリ科

- スズメよりも少し大きい。
- 特徴的<sup>とくちょうてき</sup>なさえずり。
- 早口の大声で、長く続け、夜も鳴く。

ノビタキ  
スズメ目ヒタキ科

- スズメくらいの大きさ。
- 見た目の特徴:オスとメスでは、色が異なる鳥。  
オスは黄色の胸と腰、のど元がオレンジ色。
- イタドリの森でよくみられる。



# 年中、様似川で見られる鳥

さがしてみよう!

さえずり ピーヨ♪ヒーヨ♪  
飛びながら ピーツピーツ♪

チョンチョン♪  
ジュイーン♪

高い声  
ピヨピピピ ピツピツ♪



ヒヨドリ

スズメ目ヒヨドリ科

- スズメよりもずっと大きい。
- 体は灰褐色で、頭上が青灰色味が強い。耳元は褐色。



カワラヒワ

スズメ目アトリ科

- 肌色のくちばしが特徴的。
- 飛ぶと翼の黄色の帯が目立つ。
- 写真は綿毛を加えている。
- アポイ岳周辺にもいる。



アオジ

スズメ目ホオジロ科

- スズメくらいの大きさ。
- きれいな緑や黄色は自然に溶け込み目立たない。

# そじょう 様似川を遡上する「秋サケ」



幌満川のサケ

- 9月～11月頃にかけて北海道の多くのサケが産卵のために川をのぼっていきます（遡上）。
- サケが卵を産む場所は、比較的浅くて流れが速く、川底が砂利の場所。
- 冬に生まれ、しばらくは砂利の間で暮らし、稚魚に成長すると海にでて大きくなり、最終的に生まれた川に帰ってきます。

# 親子岩「緑色」のヒミツツ

親子岩の大岩（2019年7月）



○夏になると親子岩の表面に緑色が目につきます。この緑色は「エゾノシシウド」などの植物といわれています。

# アイヌ伝説と「ヨモギの矢」

親子岩には、次のような伝説があります。「大昔戦いに敗れて逃げてきた村おさが海に入り岩になった。それを見た追手はヨモギの矢を岩に向けて放ったところ、3つに割れてしまった。」



オオヨモギ

- ヨモギはアイヌ語で「ノヤ」。
- 新ひだか町の地名「農屋（ノヤ）」は、ノヤサル（ヨモギ原）が語源。
- アイヌ民族にとって重要な植物で、食材・薬草・信仰上大事な意味があります。神様が最初に地上に下ろした植物。団子やかゆ、傷口に当てたり、虫歯の痛み止め、じちんさい地鎮祭の魔よけに使われます。

「アポイのふもとから」より

# 親子岩と夕日の話



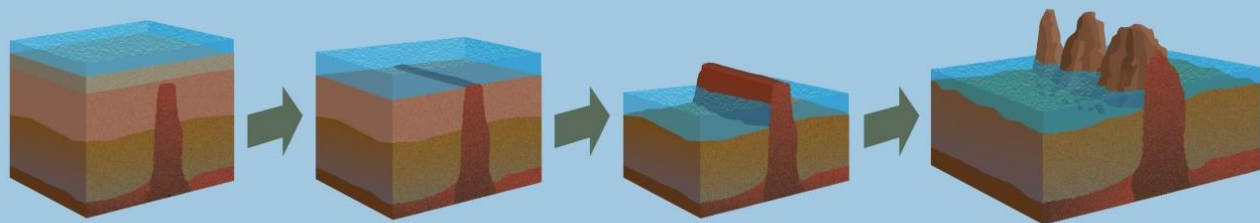
- 10月と2月頃、親子岩の大岩と中岩の間に夕日が沈みます。
- 夕日の沈む場所は、日々移り変わっています。
- もし、地球の地軸が傾いていなかったら、毎日同じ場所に夕日が沈み、春夏秋冬・四季もなかったことでしょう。

# エンルム岬や親子岩のなりたち



- はるか昔、北海道が今の形になる前、親子岩やソビラ岩があるあたりは海の中でした。
- その海底に、はるか遠くにある太平洋プレートが東南東から強い力で押したことで東南東方向に深いひび割れが生じました。1,770万年前頃、その割れ目に地下深くからマグマが入りこみ冷えて固まり「ひん岩」となりました。
- その後、日高山脈が隆起しつつあるところにマグマが入りこんだ海底も隆起し、長年の海の波や風雨による浸食によって今の形になりました。

エンルム岬や親子岩などはどうやってできたの？  
How were Cape Enrumu, Oyako-iwa and other local features formed?



地中深くから、地層の割れ目にマグマが入りこみ冷えて固まる。  
Magma from deep inside the Earth seeps into the cracks, then cools and hardens.

大地が隆起し、波の浸食によって、やわらかい周りの地層(堆積岩)は削られるが、マグマが冷えて固まった岩(火成岩)は硬いため残る。  
The new formation rises and the surrounding softer ground (sedimentary rock) is whittled away by erosion. The magma (igneous rock) remains because it is hard.

硬い火成岩もところどころ削られ現在の形になった。  
Even the hard igneous rock was eroded here and there, to become what you see today.

「さまに観音山花ひより図鑑」  
平成28年ふるさとジオ塾資料「地形とアイヌ語」より

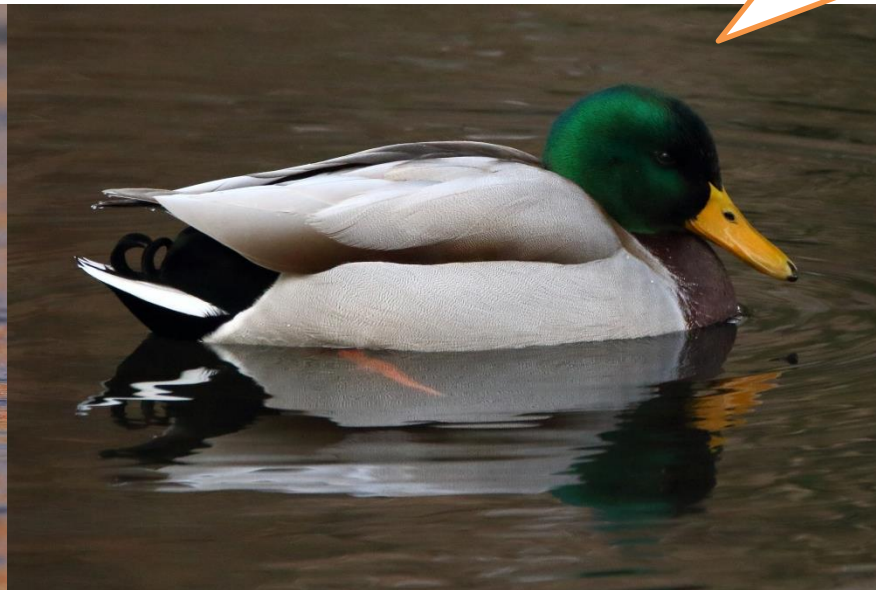
# 秋、様似川で見られる鳥

さがしてみよう!



オナガガモ  
カモ目カモ科

- オスの尾は長くのびている。
- 淡水のカモ類では、採りにくい深い所の場所のエサも長い首を利用して採餌する。



マガモ  
カモ目カモ科

- オスの頭部は光沢のある緑色で、くちばしが淡い黄色。足は赤み強い橙色。
- メスは全体が褐色。



ヒドリガモ  
カモ目カモ科

- オスの頭部から首は、茶褐色。胸はブドウ褐色。他は灰色。目の後ろが緑色の個体もいる。
- メスは全体が褐色。